

2024年6月2日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 48 「神に従う祈り」

詩編122：1～9、ローマ16：17～20

問123 第二の願いは何ですか。

答 「み国を来らせたまえ」です。すなわち、あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで、わたしたちがいよいよあなたにお従いできますよう、あなたの御言葉と聖霊とによってわたしたちを治めてください、あなたの教会を保ち進展させてください、あなたに逆らい立つ悪魔の業やあらゆる力、あなたの聖なる御言葉に反して考え出されるすべての邪悪な企てを滅ぼしてください、ということです。

「御国」とは、聖書の元の言葉では、神さまの国、神さまのご支配という意味の言葉です。しかも、これを「来らせたまえ」と祈りますから、それはこちら側から行くのではなく、向こう側から到来するという事です。つまり、それはわたしたち人間が考え出したり、追い求めるような理想郷ではなく、神さまが造りお与えになる世界、それが「御国」です。

神さまがお与えになる世界とはどういう世界でしょうか。創世記の天地創造の物語を思い起こしましょう。神さまがこの天地万物をお造りになられ、最後に人間を造られて、「極めて良かった」（創世記1：31）とおっしゃった。そこがいわば御国、神さまが良しとされた世界です。ちなみに、聖書の最後にありますヨハネの黙示録に、終末のこと、御国の完成のことが記されています。そこには次のようにあります。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない」（ヨハネ黙示録21：3～4）最初の樂園もこういう世界だったのかもしれませんが。「神が人と共に住む」神さまと人が通じ合い、神さまと人が共にいる世界。つまりそれは神さまのご支配の中に留まり、それを喜ぶ世界。そこに神さまが良しとされる世界、「御国」があります。

しかし、神さまが良しとされたこの世界と人間ですが、人間は神さまに背いて樂園を追放されました。言わば、そこで人間はこの「御国」を失います。そこから人間の罪が始まりました。その結果、この世界はどうなったでしょう。神が人と共に住む美しい世界ではなくなりました。人間の支配がそこに始まります。人間の支配がもたらすもの、それはこの歴史を見れば明らかでしょう。人が人を支配し、抑圧し、命を奪う。争いが絶えない世界です。それは御国とは程遠い世界です。

けれども、神さまは、愛する独り子イエスさまを救い主としてお与えになられました。イエスさまは、このように言われて伝道を始められます。「時は満ち、神の国は近づいた」（マルコ1：15）イエスさまの十字架とよみがえりによってわたしたちの罪は赦され、失われた神の国、御国をもたらししてくださいました。しかし、まだ完成ではありません。それは終末を待たねばなりません。その時まで、持ちこたえなければならぬ。そのために神さまは聖霊を与えて教会に神の民を集められます。信仰問答では次のように言い表しておりました。

問54 「聖なる公同の教会」について、あなたは何を信じていますか。

答 神の御子が、全人類の中から、御自身のために永遠の命へと選ばれた一つの群れを、御自分の御霊と御言葉とにより、まことの信仰の一致において、世の初めから終わりまで集め、守り、保たれる」

今は、その御国に招き入れる者を教会に集め、守り、保たれるときです。こういうイメージができます。天が近づき、この地上にせり出しています。このせり出している部分が教会です。やがてはこの天、神さまの国がすべてを覆い尽くす時が来る。神さまがすべてのすべてになるのでしょうか。それが終末です。でも今は、最後の時、新しい天と地がなるときまで、地上に現された神さまのご支配を維持し、継続していくことが求められているのです。

何でもそうですが、何かを維持し、継続していくことは簡単なことではありません。身近なことと言えば、健康がそうでしょう。健康を維持することも、黙っていればできるものではない。食事に気をつけたり、運動したり、生活習慣を改善したり、そこには努力が必要です。また仕事や事業を継続していくこと。そこには強い意思や使命感、あるいは努力、忍耐が必要となります。厳しいこの世の現実の中で淘汰されていくでしょう。その中で持ちこたえていく。これは並大抵のことではありません。

ある方が、年金を満額受け取るためにあと何年という話をしていました。それまで健康に気をつけ、この状態を維持したいというのです。終末というのは、わたしたちが最後に神さまの国を受け取る時です。それこそ満額受け取る時です。そのときまで、何とか今の状態を維持すること。そう考えますと、この信仰問答の意味がわかるのではないのでしょうか。御国という天の資産を満額受け取ることができるように、それまでいよいよあなたに従うことができますように。この状態を維持できますように。それが「御国を来たせたまえ」には込められているのです。

でも、これは人間の努力、手腕にかかっているわけではありません。「あなたの御言葉と聖霊とによって」とあります。御言葉とは、受肉した神の言葉であるイエスさまです。そのイエスさまの福音、十字架とよみがえりの御業と申し上げてよいでしょう。そしてそこに絶えず導く聖霊です。それによってわたしたちが神さまにいよいよ従うことができますようにと祈るのです。そしてそのために「教会を保ち進展させてください」とあります。これは原文では「増えるように」という意味です。教会が増える。教会員が増えること。そのことを祈り求めなければなりません。

今は教会が減り、教会員も減少しています。ある地方の牧師が「今、教会は息も絶え絶えだ」と言われました。二、三人の教会で毎週の礼拝を守ることがやっと。そういう教会は幾つもあります。牧師も不足しています。「教会が増えるように」というのは、決して自分たちの利益を求めているわけではありません。今は、救われる神の民を教会に集めているときです。一人でも多くの人が主の招きに応じて、教会に集められるように。そのためには教会が進展していかなければなりません。教会が小さいことを嘆いて、そういう天の幻をわたしたちは見失っていないのでしょうか。人間の思惑に心とらわれて、御国の素晴らしさを忘れてしまう。だからこそ心を込めて「御国を来たせたまえ」と祈り続けましょう。

天の父よ。イエスさまによって御国を約束されておりますこと、すでに教会に招かれこの御国の喜びを先取りしておりますことを感謝いたします。どうぞ御国の完成まで、この状態を守り、保つことができますように。聖霊の導きを祈り願います。主の御名によって祈ります。アーメン。